



第27回ITS世界会議2021ハンブルグ

結果報告



2021年12月1日

ITS Japan

期間：2021年10月11日（月）～15日（金）

場所：Congress Center Hamburg(CCH)及び Hamburg Messe

主催：ERTICO-ITS Europe 及び欧州委員会

参画国・地域数：66 （95）

参加者数：13,200 （14,700）

└ 91%が欧州から、米州3%、AP地域2%、その他4%

出展者数：198 （321）

セッション：210 （214）

デモ ：27 （8）

（ ）前回 シンガポール2019年

セッション

1. セッション

(1) プレナリーセッション(PL)

政策立案者、企業のトップレベルの登壇者を中心に、政策的、戦略的なハイレベルの議論が行われる。

(2) エグゼクティブセッション(ES)

官・民・学の有識者がITSの効果、問題、課題などを取り上げ、政策や戦略の議論が行われる。

(3) スペシャルインタレストセッション(SIS)

各地域の専門家が研究、実用化段階のITSに関する個別のテーマについて深く掘り下げ、最新の技術や施策を議論する。

(4) テクニカル/サイエンティフィックセッション(TS) インタラクティブセッション(IS)・・・論文

あらかじめ**専門家の査読を経た論文をベースとしてセッションが編成される**。テクニカルセッションは研究開発、実用事例、政策等の幅広い内容の一般論文、サイエンティフィックセッションは、学術性の高い論文で、事後に学会誌への掲載候補となる。インタラクティブセッションは**ポスター等**を利用して、対話形式で行われる。



展示会



デモ・ショーケース



2. 展示会

国内・海外の**企業・団体・大学**が、最新のITS関連技術、商品、システム、サービス、研究成果等の展示を行う。

3. デモ・ショーケース、テクニカルビジット

最新および近未来のITSの事例を会場内外等で紹介する見学・体験イベント。

4. ソーシャルイベント

開会式レセプション、Galaディナー等によるネットワーク作りの場の提供。

プレナリ・セッション(PL): 3

エグゼクティブ・セッション (ES): 6

会議トピックス	SIS	技術論文	学術論文	その他	計
1. コネクティッド自動運転	31	19	8	5	63
2. MaaS	17	7	2	2	28
3. 物流（港から顧客まで）	5	3	0	2	10
4. インテリジェントなインフラ	14	10	2	2	28
5. 新技術による新サービス	12	2	0	6	20
6. 都市と住民の為のソリューション	13	8	2	7	30
計	92	49	14	24	179

フォーラム: 5

イベントセッションなどその他: 17

6つのトピックスに対し1／3超が
自動運転関係

・開会式及びPlenary Session

PL 1: Ensuring sustainability today

経済産業省大臣 福永審議官(製造産業局担当) (ビデオ)

・High-Level Session

ES 6: Achieving traffic safety herd immunity with vaccinated Avs

SIP-adus/トヨタ 谷口氏

RF2: Urban Mobility Challenges in Emerging Asia-Pacific Mega-cities

名古屋大学 尾崎教授、山本専務理事

MaaS Global Forum: Mobility for everyone, everywhere

JCoMaaS代表理事/東京大学 中村教授 (ビデオ)

・Special Interest Session

SIS05 Automated Driving System for Universal Service

内閣府 福島参事官 (ビデオ)

警察庁 牧野参事官 (ビデオ)

デジタル庁 森参事官補佐 (ビデオ)

総務省 井出室長 (ビデオ)

経済産業省 福永室長 (ビデオ)

国土交通省道路局 坂井室長 (ビデオ)

国土交通省自動車局 多田室長 (ビデオ)

SIS 72 New Business Models as an enabler of a circular economy of mobility

山本専務理事

日本提案の11のSISセッションが実施される予定でしたが、新型コロナの影響で9つが取り下げとなりました。

10月11日 (16:00-17:45) 1,660人参加



メルケル首相(ビデオ)



米国運輸省 ITS-JPO Kenneth Leonard(ビデオ)



Dr Peter Tschentscher ハンブルグ市第一市長



経済産業省 福永審議官(ビデオ)

YouTubeで開会式全て<2時間15分>が視聴可能です。https://www.youtube.com/watch?v=vGWfssb_cRM&t=3351s

開催日時・場所:

2021年10月12日 (9:00-10:30)・ CCH Hall Z

登壇者:

・モデレータ:

- Prof. Sarah Sharples, チーフ科学顧問、英国運輸省

・基調講演:

- Matthew Baldwin, 副総局長、欧州委員会 DG MOVE

・スピーカ:

- 福永 哲郎、経済産業省 大臣官房審議官 製造産業局・中小企業政策担当

- Carolin Reichert, VP, Connected Mobility Solutions, E-Mobility, 独ボツシュ

- Mr Markus Schlitt, CEO、独Yunex Traffic (Siemensから独立)

- Dr Daniela Gerd tom Markotten, Digitalization & Technology担当役員, ドイツ鉄道

- Roger Millar, 米ワシントン州運輸省長官



基調講演: Matthew Baldwin, 副総局長、欧州委員会 DG MOVE

- ・“**欧州気候法**”(2021/6)による2050年気候中立目標に対し、ITSがやるべきこと:
CO2削減、渋滞解消、騒音軽減、交通死者数削減。対策費用は莫大だが必要。
- ・“持続可能でスマートなモビリティ戦略” ロードマップ(2020): 2050年には交通由来の温室効果ガスの排出を90%削減が目標。**公共交通の利用増加を不可逆的に進める**
- ・“ITS Directive”(2021)の注力テーマ: マルチモーダルの為のデジタルインフラの構築、物流、都市部でのファースト/ラスト・ワンマイル・サービスの為のデータ共有

ディスカッション

- ・EV予想(EU): 新車の60%、2021年比で2035年500%。E-BIKEは2021年内で35%伸び。充電ステーションを10年以内に10倍設置(現在26万か所)。
- ・ドイツ鉄道は電車・トラムで4週間前から既に自動運転を実施している。
- ・日本は2050年に向けたグリーン成長戦略を策定(EV化、Logistic改善、Road to the L4等)
- ・米ワシントン州では50%の人が乗用車持たず、**人間の尊厳を守り移動可能にすることが運輸省役割**。
- ・独Yunex: データ共有は信頼が問題。中国では車両電池利用データ共有化で新ビジネス創出。

開催日時・場所:

2021年10月13日 (9:00-10:30)・ CCH Hall Z

登壇者:

・モデレータ:

- Mr Joost Vantomme, Smart Mobility Director, 欧州自動車工業会(ACEA) <2022/1からERTICO CEO>

・基調講演:

- Dr Tobias Miethaner, Digital Society部門長, 独連邦運輸デジタルインフラ省

・スピーカ:

- Kristian Hedberg, Sustainable & Intelligent Transport部門長, 欧州委員会 DG MOVE
- Gilles Mabire, Executive Vice President and CTO, 独コンチネンタル社
- Michael Bueltmann, Managing Director, 独HERE Technologies社
- Daniel Deparis, Head of Urban Mobility Solutions, 独メルセデスベンツ社
- Dr Young-Jun Moon, Senior Research Fellow, 韓国KOTI
- Ramin Massoumi, Senior Vice President & General Manager, 米Iteris社



基調講演: Dr Tobias Miethaner, Digital Society部門長, 独連邦運輸デジタルインフラ省

- ・コネクティッド自動運転は、①排ガス軽減、②高齢者のDoor2Door移動、③都市、郊外の両方で利用可能、の利点があり、連邦政府、州政府の研究開発費で後押しする。
- ・レベル3自動運転は、法制化(改正版)により実証試験だけでなく、実利用にも対応。レベル4自動運転は、物流とラストマイルが最初のユースケースとなりそう。
- ・実市街地でのモビリティPFを用いた、小口配送とオンデマンドシャトルの10のプロジェクトを通じ、①安全②持続的運用③利便性④信頼性について、デジタル化が交通に寄与できるかを実証。
- ・新たにMobility Data Space(MDS)を立ち上げ、データ共有やAI活用を行う。

パネル・ディスカッション

- ・米Iteris: データ透明性を担保し、共創でユースケースを作り、価値を作り上げる必要がある(競合とのデータ共有、特許の弊害など)。特にデータ収集の標準化は必要。事例として、交通インフラ改善、トラックのリアルタイムデータ、ニアミスデータ、自転車・バイク・自動車の衝突回避
- ・韓国: 2010年ITS世界会議を開催した4百万人都市の釜山では、渋滞と排ガスは20年前から改善していないが、ITS投資により悪化はしていない。ソウルから約40%の中央官庁が世宗市へ移転しスマートシティを目指したが、移転者は車利用を継続し公共交通利用は増えず、BRT他で対策中。